

エラブミナミチビコメツキ *Nanseia erabuensis* (Kishii, 1966) や斑紋が消失したイリオモテチビコメツキ *Prodrasterius collaris asaokai* Ôhira, 1994 を思わせる個体であった。しかし、前胸背板には大小2種類の点刻で被われ、点刻間は滑らかで光沢を放つこと (Fig. 3)、後角には1本の明瞭な隆起線を備えること (Fig. 4)、そして前胸腹板線先端部に浅い凹溝がないことから本種と同定した。なお、念のため、父島産の雄とホロタイプの産地である与那国島の宇良部岳産の雄個体の交尾器を比較したが、双方に両者を明確に区別できる形態上の違いは認められなかった。

## 引用文献

- Arimoto, K., T. Tsukada, & H. Arimoto, 2015. Review of the genus *Heteroderes* Latreille in Japan (Coleoptera: Elateridae: Agrypninae). *Japanese Journal of systematic Entomology*, 21: 345–350.
- 今坂正一・阿比留巨人, 2012. 長崎市英彦山とその周辺の甲虫類 (2009–2010). 英彦山虫取り散歩で得られた甲虫の季節変動など. こがねむし, (77): 37–58.
- 岸井 尚, 2006. 細川浩司氏蒐集の邦産コメツキムシ. 地域甲虫自然史, (2): 1–89.
- 楠井善久・宮城秋乃, 2013. 地表性コメツキムシ3種の食性の観察. さやばねニューシリーズ, (12): 57–58.
- 大林隆司, 2016. 世界自然遺産登録地に適した侵入病害虫等管理技術の検討～小笠原(父島, 母島)島外からの購入苗から検出された生物類～. 世界自然遺産地域小笠原諸島新たな外来種の侵入・拡散防止に関する検討の成果と今後の課題の整理(科学委員会下部新たな外来種の侵入・拡散防止に関するワーキンググループ), 参考資料 5. file:///C:/Users/elate/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/UPA6AVEU/challenge\_invasive%20alien%20species\_3%20(1).pdf
- 大林隆司, 2017. 小笠原(父島, 母島)島外(沖縄本島)からの購入苗から検出された生物類. 日本生態学会第64回全

- 国大会(2017年3月, 東京)講演要旨. 一般講演(口頭発表) C01-03. <http://www.esj.ne.jp/meeting/abst/64/C01-03.html>
- 大平仁夫, 1994. 日本産チビコメツキ亜科の属・種について. 越佐昆虫同好会特別報告, (2): 217–234.
- 大平仁夫, 1996. 琉球(宮古島・与那国島)のコメツキ採集記. 北九州の昆蟲, 43: 29–32.
- 大平仁夫, 1997. 沖永良部島のコメツキムシ採集記. 北九州の昆蟲, 44: 151–153.
- 大平仁夫, 1999a. 波照間島のコメツキムシ採集記. 北九州の昆蟲, 46: 14–15, pl. 5.
- 大平仁夫, 1999b. 渡嘉敷島・座間味島のコメツキムシ採集記. 北九州の昆蟲, 46: 121–123, pl. 19.
- 大平仁夫, 2011. 栗原桂一・春江夫妻の採集品に基づくコメツキムシ類の記録(2). 一石垣島・西表島. さやばねニューシリーズ, (4): 17–18.
- 大平仁夫・松尾照男, 2000. 松永斎大氏採集の沖縄本島産コメツキムシ類. 北九州の昆蟲, 47: 105–115.
- 大平仁夫・楠井善久, 1975. 小笠原諸島のコメツキムシについて. *Elytra*, Tokyo, 2: 17–21.
- 大平仁夫・楠井善久, 2005. 琉球列島小島嶼のコメツキムシ(2). 月刊むし, (412): 32–33.
- 鈴木 茂, 2018. 日本列島の甲虫全種目録. <https://japanesebeetles.jimdo.com/> 2018年9月30日閲覧.
- 高桑正敏・藤田 宏, 2010. 屋久島高地帯花之江河周辺における昆虫調査. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (39): 35–38.
- 山崎仁也・松村雅史・吉田和久・力身恭二・日黒賢児, 2016. 鳩間島・新城(上地)島・黒島の動物相(FAUNA) — 昆虫相を中心に. 沖縄県立博物館・美術館 博物館班編, 2016(2015). 鳩間島・新城島・黒島総合調査報告書 2016: 69–80. 沖縄県立博物館・美術館博物館班, 那覇.

(2019年9月24日受領, 2019年12月10日受理)

## 【短報】日本産ガムシ科の1新種と和名新称

筆者は順次刊行中の日本産昆虫目録の執筆依頼を受けた際、北方四島産の昆虫は当然日本産種としてリストアップすべし、との指示を受けた。現在如何なる方針で昆虫目録の編纂が進んでいるかは定かでない。最近、筆者を共著者の一人として、ガムシ科ハバビロガムシ亜科ケシガムシ属 (*Cercyon* 属) の1新種が国後島より記載された (Ryndevich *et al.*, 2019)。原記載論文では、この1新種の分布は「極東ロシア」と書かれている。この扱いは筆者の立場としては相容れないものではあるが、政治を科学の場に持ち込むことを避け、うやむやにした経緯がある。本稿にて、この1新種を日本産種として既に「記載済み」であることを報告するとともに、和名を新しく与えることとしたい。

和名新称: クナシリケシガムシ

*Cercyon (Cercyon) sundukovi* Ryndevich *et al.*, 2019  
分布: 北海道(国後島)。

## 引用文献

- Ryndevich, S. K., H. Hoshina, & A. A. Prokin, 2019. Review of species of the genus *Cercyon* of Russia and adjacent regions. VI. Subgenus *Cercyon*, the *C. shinanensis* group (Coleoptera: Hydrophilidae). *Zoosystematica Rossica*, 28: 258–266.

(保科英人 910–8507 福井市文京 3–9–1

福井大学教育学部)